



ニューズレター

SDM NEWS



慶應イノベティブデザインスクール公開講座「幸せな社会を創るには」を開催。幸せな町のプロトタイプングの様子

3

2014年 月号

行事予定

2014年4月19日(土)

慶應SDM研究科説明会

@日吉キャンパス

<http://www.sdm.keio.ac.jp/2014/02/24-130456.html>

要事前登録

専任教員からのメッセージ

慶應SDMを去るにあたって

慶應SDMがスタートした2008年4月に本研究科に参加し、本年3月に退任する佐々木です。

この6年の間、システムエンジニアリング、ディペンダブルシステム、電子システム安全、等の講義を担当するとともに、修士研究の指導を行ってきました。

もともと、自動車会社でエンジニアとして働いてきたこともあり、教員としては、ゼロからの出発でした。ただ、会社でも人材の育成、プロジェクトマネジメントは専門の技術開発と並んで大きなウェイトを占めていましたので、慶應SDMでの教育においても役立つ点があるのではないかと考えていました。

実際に担当した結果は、当初のむくろみは半分程度予想通り、半分は予想外でした。その予想外の部分は慶應SDMが社会という非常に広い対象もカバーしようと試みている点でした。私自身、システムズエンジニアリング手法が社会のデザインに有効かどうか半信半疑でしたが講義を進めていくなかで社会システムを包含してゆくことの重要性、逆にいうと技術システムだけ

を対象とするシステムズエンジニアリングの限界を理解できるようになったかと、振り返りのなかで納得している次第です。

自動車会社でのエンジニアリング業務から大学という場に身を置いてみると大学

が社会の中で果たす役割のなかで大きなものは、社会や技術の方向を示し、そこへ向かう手段を提供することであると6年間の教員経験から考えるようになりました。

慶應SDMではまさにその先端で活動が行われているので、知的な興奮を大いに味わうことができました。あつという間の6年間でしたがこれからも慶應SDMの近くで研究を続け、私の姿を見かけたら声をかけてください、よろしくお願いします。

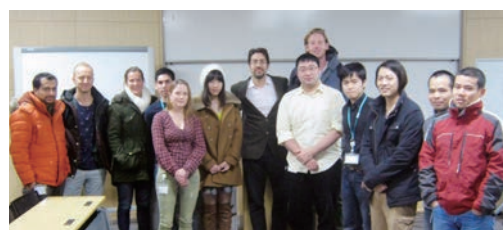


SDM研究科教授 佐々木 正一

4月から他大学への移籍に伴い、本ニューズレターでの私からの皆様へのメッセージは最後のものとなります。まずは、慶應SDMでの私の3年間で貴重で有意義な経験に可能としてくれた教員、事務、院生、そして外部支援者の皆様にこの場を持って、深く御礼申し上げます。

振り返りますと、慶應SDMでの3年間は福沢諭吉先生の教えの通り、「半学半教」の毎日でした。「SDM」と初めて聞いたとき、正直なんのこともはつきりわからないイメージがありました。システムとデザインとマネジメントと言う幅広い概念がどのように融合し、学問として成り立つのか、さらには教育方法になるのか、若干不安がありました。2010年の秋口に始めて慶應SDMで特別講義(たしかWikileaksをテーマとしたものだと思っていますが)を行い、不安がワクワクになりました。野心的で、創造的な大学院に多くの幅広い経歴の院生が学びに集まっているところだな、と関心いたしました。3年たった今も、その初印象は変わりません。

慶應SDMでは本当にいろいろなドメインの勉強をしました。こちらで教鞭を執るまでは自分が二輪車の制御、震災時の衛星通信、「殻を破る」精神構造、「じゃんがら念仏」おどり、地方議会広報などありとあらゆるシステムに関する研究に対して学術的なアドバイスをするとは思っていませんでした。修論・博論の発表会は長



い日は朝9時から夜19時まで長丁場で、慶應SDMの業務で一番へとへとになるものですが、振り返ると、幅広い研究成果を間近で聞こえる、大変楽しい時間でもありました。

私が担当した社会科学や政治学の講義に置いて、多く学びました。政治学を専攻してきていない履修者に、どのような情報を、どれだけのディテールで、どのような形で重要な概念やコンセプトを教えるのか、いろいろ悩みながら、自分の知見を研ぎ澄ます機会でありました。もちろん社会人学生などから専門家には思いつかない政治への疑問や視点など、多くの刺激を受けました。

今後は研究も教育も自分の専門分野である政治学に集中していきますが、慶應SDMで得たレッスンは忘れないつもりです。今後の慶應SDMの更なる飛躍を楽しみに、関西から応援していきたいと思います。Good Luck, SDM!

SDM研究科准教授 ヒジノ ケン・ビクター・レオナード

慶應義塾大学イベントカレンダーもご利用ください。

http://www.keio.ac.jp/ja/event/201403/201403_index.html

通算64号 2014年3月発行

SDM
System Design and Management

慶應イノベティブデザインスクール公開講座「幸せな社会を創るには」を開催



幸せになるためのワークショップの様子

2014年2月23日(日)に、100名近い参加者を集め、慶應義塾大学日吉キャンパス協生館にて一般向け公開講座 慶應イノベティブデザインスクール「幸せな社会を創るには」を開催した。午前中は、前野隆司教授による、「幸せになるためのワークショップ」。各自の目標、感謝、悩み、困りごと等を、幸せの四因子に即してグループ内でシェアした。続いて、慶應SDM学生による「社会を幸せにするためのワークショップ」を実施。グループごとに幸せな町を創るためのアイデアを出し合った。最後に、保井俊之教授による、幸せな町のプロトタイプ作成と発表を実施。参加者はグループごとに人形劇によりそれぞれのアイデアを発表し合った。参加者の満足度は高く、さらに学びたいという声を多く聞くことができた好評なイベントとなった。



幸せな町づくりのワークショップの様子

慶應SDM-デルフト工科大学TPM連携公開講座「メトロポリス革命—欧州の視点から」 2014年2月25日(火) 開催

グローバル化が急速に進行する世界で、ニューヨーク・ロンドン・東京・パリなどの巨大都市(メトロポリス)が国家運営と技術革新に対して大きな影響を与えるようになってきている。現代社会における巨大都市の役割について、この分野の専門家であるデルフト工科大学技術マネジメント・ポリシー研究科(以下、TU Delft TPM)委員長のTheo Toonen 教授より、欧州統合の現状についての具体的な事例の分析も交えながら解説して頂いた。当日は、SDM研究科の学生のみならず、様々な方々が参加し、会場は熱気に包まれた。なお、SDM研究科は、在日オランダ王国大使館からの支援を受け、2009年からTU Delft TPMとの交流を深め、包括的な協力関係にあり、積極的な教育研究の連携を進めている。

TU Delft TPM: ▶ <http://www.tbm.tudelft.nl/en/>



Theo Toonen 教授による公開講座

佐々木正一教授の最終講義を開催



2014年3月8日(土)に「人の暮らし方とモビリティの将来」と題して佐々木正一教授の最終講義が行われた。親子の暮らしのありかた、東アジア人としての日本のありかた、原子力発電と安心・安全のありかた、電気自動車が普及す

る2020年から2030年代の世界、さらには空飛ぶ自動車の可能性にまで話が及び、スケール感と含蓄のあふれる講義となった。また、慶應SDMで多くを学んだというお話に、半学半教を基本とする慶應SDMの精神がにじみ出ている。

最後に、技術観から人生観まで、佐々木先生の誠実な人柄が現れた質疑応答も、和やかに行われた。慶應SDM発足以来、中心人物の一人として慶應SDMを創ってきた佐々木先生の最終講義にふさわしい、すばらしい講義となった。

『システム×デザイン思考で世界を変える—慶應SDM「イノベーションのつくり方」』を発刊

慶應SDMでは、修士課程必修科目(プロジェクト科目)「デザインプロジェクト」はじめ、イノベーションのためのPBL(Project based Learning)の活動を行ってきた。すなわち、多様な者のチームでの活動に基づく、産学官連携、企業・事業体内研修、企業・事業体との共同研究、企業へのコンサルティング等である。2013年度には文部科学省「イノベーション対話ツールの開発」を実施し、全国の大学における研究のSEEDSと社会のNEEDSをつなぐために慶應SDMの手法を用いてきた。これら多方面からの強い期待に応え、2014年3月に、これらの活動の方法論と手法についてまとめた書籍『システム×デザイン思考で

世界を変える—慶應SDM「イノベーションのつくり方」』(日経BP)が刊行された。カラーで正方形の本というカジュアルな作り。イノベーションとは何か、から始まり、中心となる16の手法の説明、Q&Aなど、デザインプロジェクトの考え方と進め方が一目で分かる内容である。

編著者は前野隆司委員長。著者は保井俊之特別招聘教授、白坂成功准教授、富田欣和非常勤講師、石橋金徳特任助教、八木田寛之非常勤講師、岩田徹研究員。今後は、授業「デザインプロジェクト」や様々な活動で本書を利用し、私たちの活動を広く社会に浸透させて行く所存である。



農都共生ラボの活動成果が新刊「農業・農村で幸せになろうよ」に

農林中央金庫寄付講座「農都共生ラボ(アグリゼミ)」の活動成果として、林美香子特任教授編著「農業・農村で幸せになろうよ〜農都共生に向けて」(安曇出版)が、このほど刊行された。農都共生ラボのこれまでの調査研究・視察などで出会った農業者や専門家、実践者の方達と、林特任教授との対談集で、これからの農業・農村・地域活性のありかたを語り合っている。

農都共生(農村と都市の共生)活動による「情報の循環」、「人材の循環」、「経済の循環」が、農村・都市の双方に活力をもたらし、地域の持続可能性、そして幸せな社会につながっていく

道筋について、多角的に提言している。また、前野教授とアグリゼミ修了者4名が、農業をシステムとしてとらえ、農業の未来について考える座談会や、地域活性に関するコラムなどもあり、多彩な内容になっている。

この出版を記念して、札幌で2014年3月4日(火)、農都共生フォーラムを開催したほか、3月27日(木)午後2時から東京でセミナー「農業・農村資源を活用したビジネスモデルのつくり方」を実施する。

詳しくは下記のホームページ参照。

▶ <http://www.noutokyousei.jp>



ラボ・センター紹介

スマートシステムデザインラボ

(Smart System Design Laboratory)

担当教員: 神武 直彦 准教授

<http://www.ssdlab.sdm.keio.ac.jp/>

概要

スマートシステムデザインラボは、対象とする分野を特定せず、あらゆるものをシステムと捉え、5年後、10年後の社会でのそのシステムのあるべき姿を想像し、SDM研究科の教育で培うシステム思考、デザイン思考、マネジメント力を活用して、価値のあるスマートなシステムを創造する研究に取り組んでいます。メンバーの興味は幅広く、イノベーション、医療医薬、宇宙開発、屋内外測位、救急医療、空間デザイン、障害者支援、情報通信、自律飛行、スポーツ、地域活性、地理空間情報、ヒューマンインタフェース、ビッグデータ、ファシリテーション、プロセス改善、防災減災、まちづくりと様々です。それらの興味に応じて、多様なバックグラウンドを持ったメンバーが、世の中にイノベーションを起こすべく研究を行っています。国内に留まらず、アジア、アメリカ、ヨーロッパなどに研究実証フィールドがあることが特徴のひとつです。



ラボメンバーによる集合写真

研究領域

これらに限定しているわけではありませんが、現在、以下の4つの領域を中心に研究を推進しています。関連するキーワードは以下の通りです。

SPACE: 宇宙システム

宇宙サービス、衛星測位、国際標準、シームレス測位、相互運用、地球観測モニタ、超小型衛星、デュアルユース、防災減災、リモートセンシング

ICT: 情報通信技術

位置情報サービス、オープンデータ、行動分析、システムダイナミクス、地理空間情報システム、ビッグデータ、ヒューマンインタフェース、ユビキタスコンピューティング

Community Design: 街づくり・地域活性・ヘルスケア

スマートシティ、ソーシャルキャピタル、ソーシャルセンタードデザイン、地域ブランディング、ファシリテーション、フューチャーセンター、フューチャーセッション、ヘルスリテラシー

Innovation: イノベーション

アイデアソン、デザインプロセス、ハッカソン、ビジネスモデル、ビジュアル思考、フィールドワーク、プロトタイプング、ワークショップ、ソーシャルネットワーク



アジア工科大学院、チュラロンコン大学、東京海洋大学、東京大学、他関連企業とのスマートシティ共同実証実験(バンコク)

デザイン工房

2012年4月、ユビキタス通信ラボと共同で日吉キャンパス西別館にワークショップスペースとデザイン工房の両方の機能を兼ね備えたスマートスペースを開設しました。学生が中心となってレイアウトのデザインからペンキ塗りまで行ったスマートスペースでは、地域や産業界の方々とのワークショップや、3Dプリンタによるプロトタイプ、人工衛星の信号受信など様々な活動が行われており、ラボの拠点としての機能を果たしています。



デザイン工房(日吉キャンパス西別館)



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館
Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: sdm@info.keio.ac.jp

SDM
System Design and Management